

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 80
平成 26 年

平成 26 年度 日本庭園学会関西大会 案内

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成 26 年度 日本庭園学会関西大会 案内

本年度の関西大会は、平成 26 年 11 月 29 日(土)・30 日(日)の 2 日間、京都市の京都産業大学むすびわざ館(京都市下京区中堂寺命婦町)を会場として開催いたします。

東本願寺の渉成園(枳殻邸)の現地検討会を 1 日目の午前に、京都産業大学むすびわざ館において、研究発表会を 1 日目の午後と 2 日目の午前に、シンポジウムを 2 日目午後に行います。なお、29 日の夕刻(18:30 開始予定)より京都駅付近にて懇親会を行います。

みなさまのご参加をお待ちしております。

■大会参加費

(2 日間) 資料代・現地検討会を含む

学会員(一般): 2,000 円

学会員(学生): 1,500 円

非会員(一般): 4,000 円

非会員(学生): 1,000 円

※大会参加費は 2 日間共通です。1 日間のみの参加も

参加費は同じですのでご了承願います。

※懇親会費は 4,000 円程度、場所は参加人数確定後、申込者に 11 月 21 日以降に連絡いたします。

■参加申し込み

配布資料作成の都合上、下記の内容を明記のうえ、電子メールあるいはファクシミリで、来る 11 月 20 日(木) 17:00 までにお申し込みください。

1) 氏名

2) 会員・非会員の別

※学生の場合その旨明記願います。

3) 所属・勤務先

- 4) 電話連絡先(台風などで中止のばあい連絡いたします)、電子メールアドレス、ファクシミリ番号(任意)
- 5) 参加内容(現地検討会、研究発表会 1 日目、同 2 日目、シンポジウム、懇親会)

■申し込み先

電子メール: naka@kuad.kyoto-art.ac.jp

ファクシミリ: 日本庭園学会関西支部事務局
075-791-9342

■会場案内

京都産業大学むすびわざ館(3 階 3B 教室)

* 駐車場はありません

住所: 京都市下京区中堂寺命婦町 1-10

交通案内: JR 丹波口駅 徒歩 4 分 / 阪急大宮駅 徒歩 7 分 / 京福 四条大宮駅 徒歩 7 分

■現地見学会

東本願寺 渉成園(枳殻邸)

住所: 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

TEL 075-371-9210

JR 京都駅から徒歩約 7 分 / 地下鉄五条駅より徒歩約 5 分 / 市バス烏丸七条バス停より徒歩約 1 分

■会場までのアクセスマップ



『京都産業大学むすびわざ館』アクセスマップ



『東本願寺 涉成園 (枳殻邸)』アクセスマップ

スケジュール

■第1日目

11月29日(土)

現地見学会 東本願寺涉成園 (枳殻邸)

住所: 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

TEL 075-371-9210

9:30 受付開始

(場所: 涉成園入口/地図参照/敷地の西辺ほぼ中央、正面通りに門があります)

10:00 涉成園見学

12:00 解散

<各自移動、昼食>

13:30 研究発表会受付開始

(場所: 京都産業大学むすびわざ館3階3B教室)

14:00 研究発表会

17:00 終了

18:30 懇親会 場所未定: 京都駅付近

■第2日目

11月30日(日)

9:30 受付開始

(場所: 京都産業大学むすびわざ館3階3B教室)

10:00 研究発表会

11:30 研究発表会終了

11:45 理事会

13:00 公開シンポジウム「平安時代庭園の検討」

16:30 閉会

■研究発表会スケジュール

平成 26 年 11 月 29 日 (土)

(14:00 ~ 14:30)

1. 洲本城下・益習館跡庭園の考察

西 桂 (兵庫県立淡路景観園芸学校非常勤講師)

概要：江戸時代の淡路は、阿波の蜂須賀氏の支配下のもと、洲本に家老の稲田氏が派遣された。城下町の一角・下屋敷に、重臣の武家屋敷が軒を並べた。その中心に稲田氏の別荘・西荘がある。後に益習館という学問所になり、庚午事変(稲田騒動)の中心舞台にもなった。明治維新後、個人が所有していたが、このたび洲本市に寄付されて、調査と整備に掛かっている。曲田山を背景に巨石を用いた特異な庭園が造られている。その実態を考察したい。

(14:30 ~ 15:00)

2. 作庭記に学ぶ事業戦略 (3) 顧客志向と芸術表現の止揚はいかにして可能か？

森 泰規 (株式会社博報堂)

概要：『作庭記』は、「家主の意趣を心にかけて、我風情をめぐらして」とかく。筆者のような経営実務に携わる者の言葉で翻訳すると「顧客志向を生かした芸術表現がありうる」ということで、そうならば、当たり前のようにきこえて、実務的には非常に実現が難しいことを理想とした驚くべき指摘である。『作庭記』を事業戦略への示唆として読み解く研究の第三回として、今回はその「顧客志向と芸術表現との止揚」を検討し、会員の皆様と議論したい。

(15:00 ~ 15:15)

休憩

(15:15 ~ 15:45)

3. 「宝塚」における植木生産の動向

阪上 富男 (植彌加藤造園株式会社)

概要：本論では、植木の日本三大産地の一つである「宝塚」が、生産地として発達することのできた特性や歴史の変遷から、その繁栄と衰退の要因を明らかにする。また人々はどのような樹種を欲し、生産者はどう対応してきたのか、生産者の植木への思いと併せて調査すると共に、生産樹種の決定要因や、近年どのような樹種が注目

され、数多く作られているのかを、資料や聞き取り調査から明らかにし、植木生産の今後の方向性について考察する。

(15:45 ~ 16:15)

4. 『中務内侍日記』にみる宮廷生活における庭園の役割に関する考察

関西 剛康 (南九州大学環境園芸学部環境園芸学科)

概要：『中務内侍日記』は、伏見天皇の春宮時代から仕えていた伏見院中務内侍こと藤原経子が、弘安3年(1280)から正応5年(1292)までの13年に渡る宮廷生活を著した日記文学である。この日記には宮廷生活における庭園使用について、作者の心情や和歌と併せて記述されており大変興味深い。そこで本研究では、今は無き当時の宮廷庭園がどの様に宮廷生活で使われていたかについて、その一端を分析・考察するものである。

平成 26 年 11 月 30 日 (日)

(10:00 ~ 10:30)

5. 特別史跡及び特別名勝醍醐寺宝院庭園にみる定期修理の実態と一般性

今江 秀史 (京都市文化財保護課・大阪大学大学院人間科学研究科)**吉野 裕仁 (樋口造園株式会社)**

概要：本論の目的は、庭の定期修理の一般性の顕在化である。研究の手法は、筆者らが実務に携わった11箇年にわたる特別史跡及び特別名勝醍醐寺宝院庭園における園池・築山・植栽樹木の修理過程と内容を詳述し、修理に至る動機と過程の解明にもとづいて、定期修理の行為の意味を探究する。緊急修理の一般性は多様である。第一にその計画には恒常的な先入観が潜在しており実態と乖離している場合がある。第二に護岸や築山の仕組みは庭に内在しているため目前にある外観とは異なり内部を確認しなければ実情を把握することができない。第三に考古学的調査は、現行の理念や原則、技術論よりも以前に成立していた痕跡を表出させるため、実際の修理手法は過去の作業を遡って推察し、さらに時間を巻き戻して工程が考案されることになる。最後に、こうした修理手法は間主観性をもって合議に至る。

(10:30～11:00)

6. 京都御所御池庭・御内庭等の変遷

杉尾 伸太郎 (株式会社ブレック研究所)

概要：京都平安京の大内裏は度々の火災により、里内裏へ移ることが繰り返されたが鎌倉時代後期から東洞院土御門邸に内裏が決まり、その後は多くの火災などにかかわらず、明治までこの地にあった。本研究では17世紀から19世紀における御池庭や御内庭などの変遷について考察し、さらに、新たに発見できたと思われる庭園図の時代についても考察する。

(11:00～11:30)

7. 世界文化遺産「古都・京都の文化財」のバッファゾーン保全に関する調査

—龍安寺の境内について—

仲 隆裕 (京都造形芸術大学)

概要：世界文化遺産「古都・京都の文化財」のバッファゾーン設定の現況把握と範囲再検討に向けての基礎的作業として、龍安寺境内地の変遷を検討した。境内地を3つのゾーンに分け、宝暦年間の境内古図と現況の敷地と比較した。その結果、(1) 第1ゾーンはほぼ現在の敷地として継承・保全されていること、(2) 第2ゾーンは18世紀の敷地を継承するが、1960年代に新設された道路が敷地東西を横断し、第3ゾーンとの間が分断されていること、(3) 第3ゾーンはかつての参道と塔頭、田地であるが、塔頭の多くは失われ、あるいは龍安寺から独立していること、等を把握した。

(11:45～12:45)

理事会

公開シンポジウム 「平安時代庭園の再検討」

趣旨：2011年に京都市中京区で発掘調査された藤原良相(813～867)の邸宅跡では、平安時代前期の園池の全容が良好な状態で確認されるとともに、墨書土器や木簡、檜扇の断片などが検出された。本シンポジウムでは、これら遺物に記された最古級のひらがなを解読された西山良平・京都大学大学院教授による基調講演を受け、藤原良相邸庭園・堀河院庭園など発掘調査で遺構が確認された平安時代の庭園に関して各庭園遺構の発掘調査担当者からの事例報告を交えて、平安時代の庭園をめぐる議論する。また、特別報告として、大阪府島本町で最近確認された水無瀬離宮に関連すると思われる庭園遺構を紹介していただく。

(13:00)

開会あいさつ

日本庭園学会会長 鈴木久男

(13:05～14:05)

基調講演「平安貴族と邸宅」

京都大学大学院教授 西山良平氏

事例報告

(14:10～14:55)

堀河院と藤原良相邸庭園の発掘調査

京都市考古資料館 丸川義広氏

(14:55～15:40)

最近の平安京発掘庭園の調査成果

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 南 孝雄氏

(15:40～16:20)

水瀬離宮跡の発掘庭園について

大阪府三島郡島本町教育委員会

(16:20～16:25)

休憩

(16:25～16:55)

ディスカッション「9・10世紀の庭園をめぐる」

コーディネータ 鈴木久男

(17:00)

閉会挨拶

日本庭園学会関西支部長 仲 隆裕

第9回 日本庭園学会賞の募集のお知らせ

この度、日本庭園学会では、日本庭園や日本庭園に関わる研究に関する業績を顕彰するために、日本庭園学会賞を設けました。今年度は第8回の募集をおこないます。

審査の対象は、論文など学術に関すること、庭園技術や技能に関すること、庭園に関する著作等です。著作等には、映像や写真も含まれます。

応募締め切りは、平成26年3月31日（必着）です。なお、応募書類は返却しません。

この賞は会員ばかりでなく、会員の推薦する者も学会賞の対象者になりますので、庭園学の発展のために、自薦、他薦を含めまして、ぜひご応募のほどをお願いいたします。

平成26年10月
学術委員会委員長
藤井 英二郎

日本庭園学会賞 募集要項

- 1.（目的）日本庭園およびそれにかかわる研究に関する業績を顕彰するため。
- 2.（対象者）日本庭園学会員または学会員の推薦する者。
- 3.（対象）学術：庭園に関する論文で、庭園学の発展に貢献した者。
技術：庭園に関する計画・設計・施工、維持管理・運営、遺跡調査、復元整備、修理等庭園技術および技能の発展に貢献した者。
著作等：庭園に関する著作、映像、写真等の業績が極めて優れていると認められた者。また、各種活動により庭園学の発展に寄与した者。
なお、他に奨励賞を設けることができる。
- 4.（表彰）総会で学会長が授与し、その内容を日本庭園学会誌に公表する。
- 5.（応募）授賞対象者は学会員または学会員の推薦する者とする。
推薦者は別紙に定めた「日本庭園学会賞推薦応募書」と選考に必要な資料を添えること。

■ 応募書等の送付先： 日本庭園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1丁目20番11号 有限会社 造園会館 事務所内

■ 応募の締め切り： 平成27年1月31日（必着）

■ 応募に関する問い合わせ先： 信州大学農学部 佐々木邦博

Tel & Fax 0265-77-1500（直通）， E-mail ksasaki@shinshu-u.ac.jp



寄稿 2014年北米日本庭園協会 (NAJGA) カンファレンス

さる10月、前後に業務を挟み、北米日本庭園協会カンファレンス (NAJGA2014) に参加し、発表する機会を得た。ひとあし早く晩秋の訪れたシカゴを舞台に、技術と実践、研究と交流を組み合わせた考えられたプログラミングだ。

当方の構想する『作庭記』を概念装置として事業課題を考えるというテーマは、これで第三回の研究発表となるが、会議事務局に暖かく迎えていただき発表の機会を得た。大きな喜びだ。18日の発表では、シアトル・バンクーバーの庭園運営に関わる関係者から具体的な組織運営について歓心を寄せられた。

このほかプログラムでは、各種意匠はもちろん、シカゴ近郊の青少年の依存症離脱プログラムや、フロリダにおける健康増進に活用されていることなど、その実用においても、日本庭園は、本邦でも学ぶべき「現地化」が進んでいることが発見であった。かような「現地化」についてこそ、その理想像や今後の展望を、十分に模索していく必要があるだろう。実際、日本からの発表においても「アメリカン・ジャパニーズガーデンがどうあるべきなのかを考えてほしい」という発言があり、これについては、北米の参加者からも共感を得ていた。かような提案とその反応に感銘を受けた。

筆者はこの会議前にクリーブランド市へも出張し、富裕層の自宅に見事な日本庭園をみた。この医師と写真家のご夫婦は大変な日本通であられるが、「従前の生態系にあったものは残す、あえて花は北米原生のものとする」という方針を徹底していた。それは、生粋の日本式でなく、オハイオ州の原生自然へ巧みに「現地化」したことにおいて見事であり、こういう所にこそ、北米にも私達にも、もっと新しい展開が得る示唆があると確信する。

日本からは京都からの招待講演、田中泰阿弥の成果研究、公立公園の運用研究などが光芒を放った。

森泰規 (株式会社博報堂)



2014年北米日本庭園協会カンファレンス



カンファレンス参加者集合写真

北米日本庭園協会 (North American Japanese Garden Association) カンファレンス

開催日時: 2014年10月16日~18日

開催場所: シカゴボタニカルガーデン



【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

【協力者】

森泰規 (株式会社博報堂)

山本千晶、齋藤絢子 (植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342